

第4回

商店街NEXTチャレンジャー育成事業Report

2024.12.21(土) 14:00~17:00 福岡商工会議所2階 第2研修室

参加者 / 14名	
チャレンジャー	4名
他 講師	2名
事業実施者	3名
市職員	3名
オブザーバー	1名

今回のテーマ

長崎市・石橋の『関係案内所』 ちょうどよい“場づくり”を学ぶ！

第4回は、長崎都市・景観研究所/null所長で長崎市職員でもある平山 広孝氏、株式会社つくるのわデザイン代表取締役 岩本 諭氏を講師に迎え、長崎市居留地エリアのまちづくりや「関係案内所」のちょうどよい“場づくり”について学びました。



<平山さんについて>

平山さんは大学で景観・都市デザインを学び、まちづくりの研究を行う「長崎都市・景観研究所/null」を設立。その後、長崎市役所へ入庁し、公私両面でまちづくりに取り組んでいます。

2023年からまちなか事業推進室に配属され、「まちなか」の魅力を高め、賑わいをもたすことを目的に「まちぶらプロジェクト」を推進しています。平山さんは特に、居留地時代の面影が色濃く残る、異国情緒あふれる街並みが特徴の東山手・南山手エリアの活性化を担当しています。

<岩本さんについて>

岩本さんは、大学の研究テーマが「長崎の斜面市街地」で、南山手エリアが研究対象でした。それがきっかけで南山手エリアの空き家を改装し、移住しました。自宅をシェアハウス兼コミュニティスペースとして地域に開放しながら、斜面地の魅力を発信しています。これまでに南山手エリアを中心に4軒の空き家を再生し、現在は5軒目の再生を進行中です。また、(株)つくるのわデザインの代表として、コミュニティスペースの場づくり、地域自主運営組織のコーディネーターなどを務めています。

プログラム

- ① オープニング
- ② 講演
「長崎市・石橋の『関係案内所』 ちょうどよい“場づくり”を学ぶ！」
長崎都市・景観研究所/null 所長：平山 広孝氏
(株)つくるのわデザイン代表：岩本 諭氏
- ③ 質疑応答・クロージング

<長崎居留地歴史まちづくり協議会と計画>

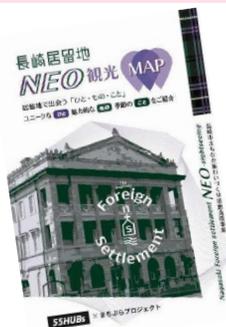
令和2年3月、長崎市は「歴史的風致維持向上計画」において、東山手・南山手エリアを計画の重点地域に設定しました。これを受け、同年8月には、岩本さんを中心とする地域住民が主体となって「長崎居留地歴史まちづくり協議会」を設立し、まちづくりに関する情報共有や、市との協働による計画策定に取り組んでいます。

また、令和3年11月には、地区の将来像や方針を示す「歴史まちづくり計画（長崎居留地歴史まちグランドデザイン）」が策定されました。



<ネオ観光案内所「HUBs Ishibashi」の設立>

「歴史まちづくり計画（長崎居留地歴史まちグランドデザイン）」のなかで、長崎居留地には観光案内所がなく情報発信が不足していることが課題として挙がりました。そこで、岩本さん、平山さんを含む有志のメンバーが、自らの出資により空き店舗を借りて、手作りの「ネオ観光案内所」をオープンしました。コンセプトは、人と地域をつなぐ「関係案内所」。観光案内だけでなく来訪された方々に地域のユニークな「ひと」「こと」「もの」を紹介します。



<ネオ観光案内所「HUBs Ishibashi」の活動>

クラウドファンディングで当面の運営資金となる約154万円を調達し、令和6年2月にはネオ観光マップを発行しました。このマップは、観光地だけでなくまちの「ひと」「もの」「こと」を紹介していることが特徴で、地図上にそこで会える「ひと」の顔写真が載っています。

現在、来訪者の約8割が地元住民で、地域コミュニティのハブとして機能しています。ボランティアスタッフが当番制で店番をしており、月に1回程度のイベント実施や、観光案内、土産品販売などを行っています。岩本さんが主体となって酒の販売許可を取得し、地酒や地ビールの販売もはじめました。その収益を運営資金にまわしながら、地元密着型のちょうどよい規模で運営しています。

平山さんと岩本さんは、この活動を通して「消費する観光」から「『まちなか』で『ひと』を通して地域の『こと』『もの』を理解する」という回遊行動へとシフトさせていきたいと考えています。